

各関係機関団体の長
各病虫害防除員 殿

福岡県農林業総合試験場長
(福岡県病虫害防除所)

平成 26 年度病虫害発生予察速報第 6 号について

このことについて、病虫害発生予察速報第 6 号（イネ縞葉枯病）を発表したので送付します。
ヒメトビウンカ越冬虫のイネ縞葉枯ウイルス保毒虫率は、県内平均では平年よりやや低い結果でしたが、一部で高い地点も認められています。今後のヒメトビウンカの発生量によっては、発病が多くなる可能性がありますので、適切な防除指導をお願いします。

速報第 6 号

- 1 対象作物：水稻
- 2 病虫害名：イネ縞葉枯病
- 3 発生地域：県下全域
- 4 速報の根拠

平成 27 年 1 月～2 月に県内 11 地点の水稻刈り株から、ヒメトビウンカの越冬虫を採集し、イネ縞葉枯ウイルス保毒虫率を簡易エライザ法で検定した。

その結果、保毒虫率は平均 6.6%で、過去 10 年間の平年 7.8%よりやや低く、前年 4.9%よりやや高かった（表 1、図 1 参照）。

越冬虫の保毒虫率が 5%を超える地点が 6 割程度確認され、本年急増した地点も認められた。なお、越冬虫の保毒虫率が 5～6%を超えると、経済的被害水準（縞葉枯病発病株率 10%）に達するとされている（岸本ら、1985 年）。

5 防除上注意すべき事項

- (1) 水稻苗への本種の飛び込みを防止するため、イネ科雑草が繁茂した場所や麦類作付ほ場付近での育苗を避ける。
- (2) ヒメトビウンカに効果の高い箱施薬剤を施用する。
- (3) 移植直後の水稻へのヒメトビウンカの飛び込みを減らすため、麦の収穫から水稻移植時期までの間を可能な限り長くする。
- (4) 5 月下旬～6 月上旬移植のほ場では、移植直後から成虫の発生に注意し、発生が多い場合は防除を実施する。

特に保毒虫率の高い（5%以上）地域及び、前年度本病が多発生した地域（主に早植えほ場）では、上記の対策を徹底する。

表1 ヒメビウンカのイネ縞葉枯ウイルス保毒虫率

番号	地点名	平成27年		平成26年	平成25年
		検定虫数	保毒虫率 %	保毒虫率 %	保毒虫率 %
1	宗像市朝町	94	3.2	7.4	7.4
2	筑紫野市吉木	94	4.3	1.1	11.7
3	久留米市山本町耳納	94	0.0	11.7	2.1
4	うきは市浮羽町山北/高見	94	5.3	3.2	6.4
5	朝倉市菱野	94	7.5	8.5	10.6
6	嘉麻市中益	94	13.8	5.3	4.3
7	添田町中元寺	94	-	8.5	23.4
8	筑後市馬間田	94	1.1	0.0	0.0
9	大川市北古賀	94	-	1.1	0.0
10	みやま市瀬高町堤/清水	94	5.3	3.2	6.4
11	八女市黒木町木屋	94	-	3.2	0.0
12	岡垣町黒山	94	-	2.1	8.5
13	遠賀町木守/浅木	94	13.8	4.3	19.1
14	行橋市辻垣	94	6.4	6.4	8.5
15	豊前市荒堀	94	11.7	8.5	16.0
16	みやこ町勝山	94	-	4.3	9.6
県下全域		-	6.6	4.9	8.4

- :平成27年未実施

■ は、保毒中率5%以上

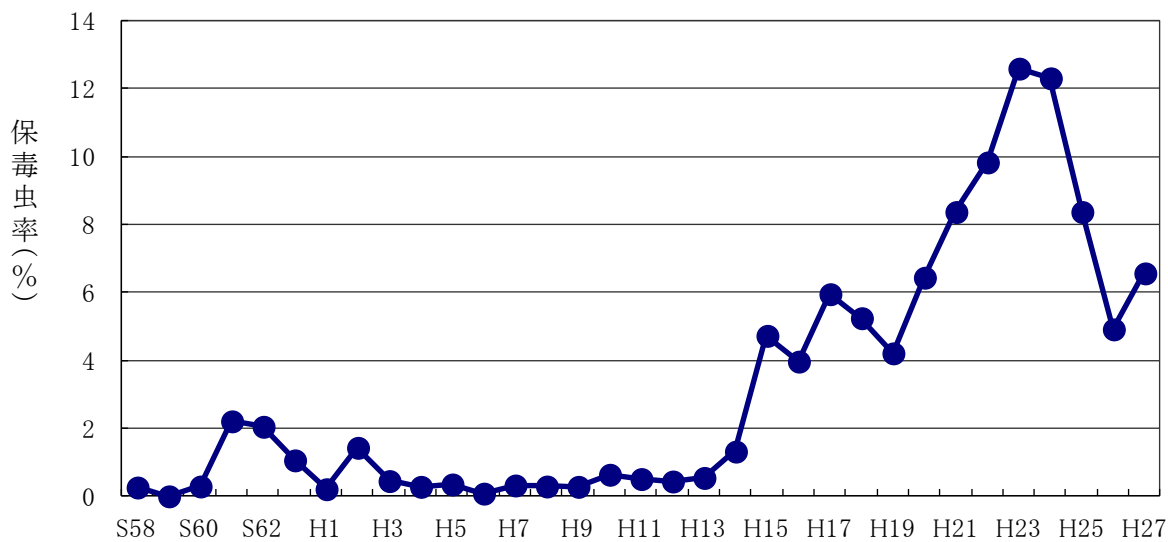


図1 ヒメビウンカのイネ縞葉枯ウイルス保毒虫率の推移

(年)